

第4回吹田市市民自治推進委員会 会議録

1 日時

令和2年(2020年)2月18日(火)午後6時30分から午後8時30分まで

2 場所

吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

3 出席者

(1) 委員

石橋章市朗(委員長)、片上孝洋(副委員長)、梶原晶、櫻井和子、柳田康人、岡倫太郎、
阪本ひとみ、登るみ子

(2) 事務局

市民自治推進室 西田室長、高木主幹、久保畠主査、山本係員

4 傍聴者

0名

5 議題

(1) 市民自治講演会について

(2) 「吹田市市民参画の推進に関する指針」のダイジェスト版の作成について

6 議事 요약等

別紙「議事のまとめ」のとおり

7 次回の予定

(1) 日時 令和2年5月26日(火)午後6時30分から午後8時30分まで

(2) 場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

議事のまとめ

発言者	主な内容
委員長	それでは、委員会を始めます。今回は、前回の講演会を踏まえ、「吹田市市民参画の推進に関する指針」のダイジェスト版の作成などについて意見交換をしたいと思います。それでは、A委員お願いします。
A委員	字を少なくし、イラストを活用すればいいと思います。また、行政に要望してうまくいかなかった失敗例と行政と協力してうまくいった成功例があれば行動を起こす際に判断しやすいです。自助・共助・公助という言葉も伝えていきたいです。
B委員	成功例を出すとその形に捕らわれてしまい、かえって自治の幅が狭まるのではないかと懸念があります。
副委員長	あらゆるケースに対応できるようにすると抽象的にならざるを得ないですが、抽象的過ぎると漠然となってしまうので、ある程度具体的な成功例や失敗例も入れるべきだと思います。事例については、こうすればこうなる、ということの積み重ねなので、ダイジェスト版をベースにしてブラッシュアップしていけばいいと思います。
委員長	最近、一つのことについて議論する哲学カフェがはやってます。同様に自治カフェがあれば若い人も来てくれるのではないかと思います。皆さんの周りに議論する場はありますか。
B委員	議論する場はないです。親しい人たちだけが集まり、そこで議論が終わっている気がします。
C委員	私の住む地域の盆踊り大会は、高齢者しか参加していなかったのを内容を変えたところ、参加者が増えてイベントも活性化しました。それを受けて次回の企画をする会議で、さまざまな意見が出ると期待していましたが、全く意見が出ず議論は活性化しませんでした。
D委員	少数派の意見を聴くために、一本釣りのような形で人を集めて会をつくったことがあります。しかし、どこから聞きつけたのか我を通す人も来てしまい、うまく話が進まなかったことがあります。
E委員	みんなで議論して決めるという雰囲気はありますが、何の意見も通らないので、言っても無駄だとか、この会は必要ないのではといった雰囲気になってしまう会合もあります。
委員長	ありがとうございました。D委員、講演会の感想等ありましたらお願いします。
D委員	大変有意義で背中を押される感じの講演会でした。自助・共助・公助などこれまでの議論がその後どうなったのか分かりやすくなれば、これまでの議論が無駄にならないと思います。また、何か行動を起こそうとしても出だしてつまづいて諦める方が多いので、気軽に相談できるネットワークづくりができるよう広報できればと思います。
委員長	B委員、講演会の感想等ありましたらお願いします。
B委員	講演会の参加者は、自助や共助に対する意識を持っていたり、普段から地域活動をされている方が多数だと思うので、それ以外の方に伝えるにはどうすればいいかと思います。また、講演会に参加されたような年配の方々と若い世代が交流できる環境も必要だと思います。
委員長	F委員、講演会の感想等ありましたらお願いします。
F委員	大学では、ボランティア活動に参加した学生に単位を認める仕組みがあります。このように参加することで得られるメリットを示せば、住民組織の活動に参加するよう促すこともできるかもしれません。 ガバナンスについて言えば、役職の任期などの自治団体の運営指針的なものを考えてもいいのかなと思いました。 住民組織間の調整について、当事者同士ではうまく調整できないことも多いので、行政がコーディネートする必要もあると思います。
委員長	ガバナンスがしっかりしている組織であれば参加のハードルは下がります。それに加えてメ

	<p>リットを明らかにすることで住民活動への参加を促す仕組みは、学生だけでなく 20、30 代にも使えるかもしれません。また、いろいろな人が組織に関わって運営していき、情報共有や責任者の説明義務の有無を問いかければ、議論のきっかけになると思います。それでは、E 委員、講演会の感想等ありましたらお願いします。</p>
E 委員	<p>娘の友達にパソコンを使ってレイアウトをするのが得意な方がいるので、広報誌の作成をお願いできないか相談した際、報酬は出るのか聞かれたことがあります。やはり、何かメリットを付けないと若い人を呼びこむのは難しいと思います。生活のために普段働いている人に無償でお願いすることが、今後果たしてやっていけるのかと最近思います。</p> <p>若い人を含めて無関心の人が多いですが、市民自治が生活のあらゆるところに直結していることを知っていただきたいです。</p>
F 委員	<p>最初のきっかけとして、お金でなくて何か得られるものがあれば、そこから潜在的なボランティア精神を引き出すことは可能だと思います。そういう仕組みに注目すると、特に学生が動きやすいのではないかと思います。</p>
E 委員	<p>参加することで地域の人とネットワークができるので、非常にメリットのあることだと認識してもらえればいいと思います。</p>
委員長	<p>本当は助けてくれるネットワークが近くにあるのに、なかなか見えにくいせいで自分で抱え込んでしまう人もいます。そういった人たちに対して情報提供できればと思いますので、行政や中間支援団体が意識的にネットワークづくりを進められないかと思います。</p>
E 委員	<p>ここ数年、地域諸団体の懇親会にはほとんど同じ人が来られます。若い人も少しずつ参加していただかないと、若い人が入るハードルが高くなると思います。</p> <p>自治会に加入しない転入者が増えており、何戸か入居者が増えてきても自治会組織ができないこともあります。市民自治に無関心で何もかもやっていけるのかと思うことがあるので、情報だけでも受けていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>ネットワークづくりは SNS のほうがやりやすいですか。</p>
B 委員	<p>確かにそうですが、今の自治会は高齢者ばかりなので SNS の活用は難しいと思います。</p>
委員長	<p>副委員長、講演会の感想等ありましたらお願いします。</p>
副委員長	<p>市民自治の確立について、自助・共助・公助の話をしました。吹田市自治基本条例を踏まえて、この3つの線引きをダイジェスト版で示していく必要があると思いました。</p> <p>行政が持つ事例をもとにこの3つを線引きした上で、地域の問題や課題は、どの部署が担当し、どういった支援が受けられるか図示してはどうかと思います。</p> <p>自分の住んでいる市やコミュニティにどういう問題があるかは、自分で動かないと分からないので、数多くの人を動かさなければ自分もコミュニティも成長しないと思います。</p>
委員長	<p>C 委員、講演会の感想等ありましたらお願いします。</p>
C 委員	<p>情報は伝わらないと意味がありません。内容がいいから伝わるというのは昔の話で、今は、市民自治に無関心の方にどうすれば伝わるのかのほうが重要だと思います。お年寄りの方はアナログの情報しか信用しないでしょうし、若者は逆にアナログの情報は面倒だと考えます。1つのダイジェスト版で万能的に使えるというのは難しいので、多種多様なバージョンがあっていいと思います。アナログの回覧板やデジタルの SNS などを活用しながらトライ＆エラーでアップデートするのが大切だと思います。</p>
D 委員	<p>市報すいたは育児世代からお年寄りまで読んでいるので、ダイジェスト版の要約版を掲載するのもいいと思います。</p>
C 委員	<p>市報への掲載もそうですし、自治会や企業にも協力していただいたりして連動していくのはいいと思います。</p>

副委員長	若い人が動かないといったらそうではなく、実際は動いていることを私たちが把握していない可能性もあります。動いたけれどもどこかでつまづいて、そこで心が折れていることも案外あると思います。そういった方々を見つけて、どこまで動いたのか、どこで挫折したのかを聞くのも意味があると思います。
委員長	最後に、私の講演会の感想等をお話しします。自助・共助・公助を客観的に区別する基準はないので、市民が判断するべきだと思います。 問題について議論し考えることが大事だと思います。現状をどう認識するかは人によって異なるので、問題に対する対処の仕方も変わります。専門家や公務員の知識や情報を参考にしながら自分たちで議論し、結果を共有できればと思います。 問題を解決するための手段として3点あります。まず1点目は、人の行動を変えることです。これは、罰則等での強制や補助金交付といった何かを与えての誘導、道徳や無意識といった心理的な方法、物理的な方法があります。2点目は、サービスの供給です。市民にとって役に立つ公共施設を建設し、教育や福祉のサービスの提供をすることです。3点目は、NPOやボランティアセクターがうまく解決できるように制度を工夫したり、マッチングの仕組みをつくることです。 市民と行政の関係、市民と市民の関係についてです。そもそも、柔軟な行政組織や職員は望ましいのかということですが、法律に従って仕事をしなければならないので、柔軟性がないのは当然です。また、談合といった悪い市民参画もあるので、余り融通が効かないほうがいいと思います。 市民と行政や市民と市民の接触面の工夫についてですが、スマートフォンにヒントがあると思います。スマートフォンの内部の仕組みを知っている人は少ないですが、接触面が優れているため誰でも操作ができます。行政と市民の場合も同様で、行政の組織は複雑で組織別にホームページがつくれているので、ある程度知らないと必要な情報が見つけれられません。行政と市民に限らず市民と市民など異なる人がコミュニケーションを取れるような接触面をつくっていただきたいと思います。
委員長	ダイジェスト版の作成について、具体的に議論していきます。予算や紙の大きさは決まっていますか。それと、どのように配布することを考えていますか。
事務局	特に決めていませんので、どうお伝えするのかなど御議論いただきたいと思います。
A 委員	一般の人が集まり意見を言える場で、実際にダイジェスト版の試作品を見ていただき、意見をもらうのはどうでしょうか。
C 委員	テストマーケティングを行うのはいいアイデアだと思います。ウェブやアプリの活用も検討してはどうでしょうか。
E 委員	私の年代は SNS をやっている人とやっていない人が分かれています。どちらかに偏っても見れない方は出てくるので、市報の活用はいいと思いました。
委員長	それでは、時間になりましたので次回の日時を決めたいと思います。
	(日時調整)
委員長	調整の結果、令和2年5月26日(火)18時30分からとさせていただきます。それでは、本日の委員会を終わります。お疲れさまでした。

※ 発言の順にA委員、B委員、C委員…と表記しています(委員長、副委員長を除きます)。